

「日本保健物理学会・令和2年度企画シンポジウム」開催案内

日時：2021年1月26日（火）～28日（木）14:45 開場

会場：Zoom ウェビナー（開催日ごとに異なる URL を使用します）

主催：一般社団法人日本保健物理学会

共催：一般社団法人日本放射線安全管理学会

参加費：1,000 円（26 日）、無料（27 日及び 28 日）

※日本保健物理学会員及び日本放射線安全管理学会員は 26 日も無料です

参加登録フォーム URL：<http://www.iips.co.jp/cgi-bin/participants/form.cgi>

※参加登録期限：1月21日（木）

※会場のウェビナーURLは1月25日（月）までに送信予定です

問合せ先：exec.off@jhps.or.jp（日本保健物理学会事務局）

プログラム：

1月26日（1日目）

15:00-16:00 「放射性廃棄物処分に係る生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査
専門研究会」

概要：放射性廃棄物処分に係る生活圏被ばく評価では多様な環境パラメータが用いられる。本専門研究会では、元素依存パラメータ（土壌中における固液分配係数・土壌からの農作物への移行係数・飼料から畜産物への移行係数・水産物への濃縮係数）について、従来使用されてきた値の出典・根拠を追跡調査すると共に、近年の新しいデータ収集や値の不確実性及び変動要因を検討し、より妥当性の高い評価へと繋げることを目的とする。

座長：高橋 知之（京大）

1. 「検討課題・検討結果」 深谷 友紀子（日本エヌ・ユー・エス）
2. 「総合討論」 高橋 知之（京大）

16:00-17:00 「国際対応委員会」

概要：国際放射線防護学会,IRPA は世界各国の放射線防護・保健物理学会を加盟学会とする国際学会であり、近年は加盟学会からのコンサルテーション結果を基に、重要な課題についてタスクグループを立ち上げるなどして議論・検討を行い、その結果を放射線防護関連のガイダンス文書としてまとめて公開している。本セッションでは、IRPA の概要と活動を紹介するとともに、近年ガイダンスが取りま

とめられた水晶体の線量モニタリングと防護の実践、及び放射線とリスクの公衆関与について情報を共有する。

座長：佐々木 道也（電中研）

1. 「IRPA と TG 活動の概要紹介」 吉田 浩子（東北大）
2. 「水晶体 TG 活動内容について」 横山 須美（藤田医科大）
3. 「IRPA Practical Guidance for Engagement with the Public on Radiation and Risk の概要について」

吉田 浩子（東北大）

1月27日（2日目）

15:00-16:00 「放射線被ばくに伴うがんリスクの推定コードの開発専門研究会」

概要：本専門研究会は、放射線被ばくに伴う発がんリスク推定に資する和製計算コードの開発整備を目的に、2020年度から2カ年計画で活動を開始した。初年度である本年は、国内外の計算コードの現状を調査し、現行のリスク推定モデルの課題と和製計算コードに取り入れるべき機能について議論した。シンポジウムでは、本年の進捗と成果について4件の発表と質疑応答を行う。

座長：佐藤 大樹（原子力機構）

1. 「がんリスク推定計算コード専門研究会の活動内容について」 佐々木 道也（電中研）
2. 「リスクモデルの現状」 高木 俊治（三菱総研）
3. 「リスク計算コードの現状」 古川 恭治（久留米大）
4. 「リスク評価の課題」 甲斐 倫明（大分看科大）

16:00-17:30 「若手研究会」

概要：本シンポジウムの目的は、若手研究会と学友会の活動を通して見えてきた、若手研・学友会が保健物理学会全体と連携して取り組むべき課題と今後の展望について議論することである。シンポジウムの始めに、若手研、学友会に携わってきた方より、設立経緯及び活動を通じて経験したこと（現在の職に生かすことができた点など）を紹介する。次に、現若手研・学友会メンバーより、最近の実績として、勉強会、アウトリーチ活動、IRPA-YGN等の国際活動について紹介する。さらに、それらの活動を通して浮き彫りになった若手研・学友会の課題と今後の展望について紹介する。課題の例として人材不足や情報発信、今後の展望例としてオンライン勉強会の有効性が挙げられるが、これらの中には学会全体と連携して取り組むべきも

のもある。本シンポジウムの最後には、学会の将来像とそれに向けて今後取り組むべきことなど、参加者も交えて議論する。

座長：安岡 由美（神戸薬科大）

1. 「趣旨説明」 迫田 晃弘（原子力機構）
2. 「若手研、学友会の設立経緯とその活動を通して得たこと」
高橋 史明（原子力機構）、森下 祐樹（原子力機構）
3. 「学友会と若手研の最近の実績」
福田 一斗（東大）、片岡 憲昭（都産技研）
4. 「学友会の課題と今後の展望」 仲宗根 峻也（琉球大）
5. 「若手研の課題と今後の展望」 廣内 淳（原子力機構）
6. 「総合討論」

1月28日（3日目）

15:00-16:00 「教育現場における低エネルギーX線を対象とした放射線安全管理に関する専門研究会」

概要：令和3年度からの中学新学習指導要領の全面实施を前にして、教育現場に於ける放射線安全管理をどのようにして達成するのか、装置運用上の注意点と、スクリーニング手法の確立、スクリーニングで高線量漏洩の恐れがあった場合の評価体制など、ハード、ソフト両面からの着地点を報告する。

座長：橋本 周（JAEA）

1. 「背景、測定技術」 秋吉 優史（大阪府大）
2. 「実態調査結果、運用上の注意点」 伊藤 照生（国際医療福祉大）
3. 「国際的規制状況」 山口 一郎（保健医療科学院）
4. 「スクリーニング」 森 千鶴夫（名大名誉教授）

16:00-17:00 「人文・社会科学的視点から考察する自然起源放射性物質含有廃棄物の取扱い専門研究会」

概要：自然起源放射性物質（NORM）と一度利用したウランの廃棄に関して、これまでの理工学的視点からの検討だけでなく、人文・社会科学的視点での検討を通して、基本的理念の構築を試みる。特にウラン廃棄物について、遠い将来増加するかもしれない潜在被ばくへの対応を次の世代に託すことの合理性、欧米と日本における NORM 廃棄物等の扱いに違いをもたらしている倫理的要因等について考察する。

座長：保田浩志（広島大）

1. 「挨拶、背景」
2. 「検討課題」
3. 「検討結果」
4. 「総合討論」

保田 浩志 (広島大)
齋藤 龍郎 (原子力機構)
麓 弘道 (日本検査)